

地 域の居場所を考える

2つの校区で「サロン情報交換会」を開催！

答えはない… でも、ヒントは“身近なところ”にあった！

9月27日に海老津校区コミュニティ、10月11日に吉木校区コミュニティが主催した「ふれあいサロン情報交換会」が行われました。参加者が互いに質問し、活発な意見交換をするなかで、時には同じような悩みを抱えて答えが出ないこともありましたが…。

考えれば考えるほど、悩みは深まるもの…
それなら、お互いに聞いてみよう！

【他の区に聞いてみる】

交流会は、2つの校区どちらも事前にアンケートを実施し、1冊の資料にまとめてスタートしました。資料を見ると、参加した各々がどんな内容で何回ぐらいサロンをしていて、どのような工夫をしているのか一目瞭然。さらに、気になる内容があれば直接質問することができ、話も熱を帯びました。

例えば、毎回同じような内容を繰り返して「マンネリ化が悩み」

という区のサロンでも、実は他の区からみたら魅力的で新しい内容に見えるということはよくあります。だからこそ、お互いの情報を交換する場が必要なのです。

すべての悩みや疑問に対して、その場で明確な答えが見つけれられただけではありませんが、参加者からは「自分の区だけで悩まず、もっと早く聞いてみればよかった」という声が聞かれました。

【参加者に聞いてみる】

ふれあいサロンは、参加者も運営する側も同じ地域に暮らす住民同士。だからこそ、参加者だけでなく運営する側も一緒に楽しめることが長続きの秘訣です。

交流会の中で出された「参加者を飽きさせないため、毎回何か新しいことを考えなければ…」と頭を



10区から35名が参加／中央公民館

悩ませている」という意見。それに対して「参加者にも何がしたいか聞いてみたらどうですか？」と提案しました。

すると後日、「さっそく聞いてみたら、毎回同じ体操を続けてほしいとか、たまにはお茶を飲んでお話するだけでいいとか、色々な意見が聞けました」と嬉しそうな声で連絡がありました。

参加者・運営側と分けて考えるより、意見を出し合いみんなで創る方が楽しみが広がるはずですよ。